

平成 27 年度第 10 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「霞ヶ浦の秋の風景 秋の水路で小魚釣り！！& 企画展ツアー」を実施しました。

開催日時：平成 27 年 10 月 17 日（土） 9 時 30 分から 14 時 30 分まで

開催場所：（午前）かすみがうら市戸崎 霞ヶ浦そばの農業水路
（午後）霞ヶ浦環境科学センター

参加者：36名

今回は自然観察会アンケートで要望が多かった釣りによる魚の観察を初めて実施しました。場所は第 1 回霞ヶ浦自然観察会と同じ農業水路です。同じ場所でも春と秋ではどのような変化が見られるのでしょうか？また、午後は霞ヶ浦環境科学センター 10 周年記念行事として開催されている企画展「霞ヶ浦の過去・現在・未来 ～変わりゆく水と生物」の解説ツアーも行いました。

まず、午前の水路での観察会ですが、当日は雨も心配されたものの、参加者のみなさんの思いが通じたのか、雨に降られることもなく無事に行うことができました。

釣りは初めてという参加者の方も多く、釣れるかどうか心配でしたが、結果は 1 時間半の間にすべての参加者が釣果をあげることができました。10 匹を超える釣果を上げる子どもの参加者もいて、企画者として、ほっと胸をなで下ろしました。また、魚に触れることに戸惑う子がいる一方で、エサのアカムシも平気な子もいたりしましたが、皆、時間が過ぎるにつれて、慣れていく様子でした。

春の水路は大きなコイやフナが産卵のために遡上していましたが、秋の水路では春に生まれたフナやモツゴなどの生育の場として大切な場所になっていました。こういう水路の存在が魚にとって大切なことを実感できました。

また、前回の観察会で雨のため実施できなかった投網教室も霞ヶ浦側の砂浜であらためて行いました。こちらも前回から楽しみにしていた参加者の方々が投網体験と捕まえた魚の観察を楽しみながら取り組んでいました。

午後からは、霞ヶ浦環境科学センターの企画展のツアーを行いました。企画展は霞ヶ浦の過去から現在、そして未来へと進んで行きます。子どもの参加者には、ナウマン象の臼歯の化石や、迫力のある中国四大家魚の大きなはく製などが人気で、大人の方々からは霞ヶ浦の成り立ちや名前の由来などが勉強になったようでした。

今回の観察会を通じてあらためて、霞ヶ浦が未来に渡って、豊かな恵みと楽しみを与えてくれる場所であり続けることを願いたいと思いました。

参加されたみなさま、観察会運営に御協力頂いたパートナーのみなさま、本当にありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察された生き物は次の通りです。

釣り：ギンブナ、モツゴ

投網：ワカサギ、シラウオ、モツゴ、クルマサヨリ

観察会の様子の一部を御紹介します。



この小さな水路が多くの生き物をはぐくみます。

みなさん魚が釣れて笑顔です。



コツをつかんで、めきめきと釣りの腕が上がっていくのが分かりました。



この水路でみなさんの相手をしてくれた魚は
ギンブナ (左) とモツゴ (右) でした。



午後は企画展ツアーを行いました。



中国四大家魚、大きいです！！



未来の霞ヶ浦への思いを書いてもらいました。